

①未体験ゾーンに果敢に挑んだパウロたち

アジアのトロアス港からサモトラケ島、そしてマケドニア（今のギリシア）のネアポリス港に着いた後、ローマの植民都市フィリッピへ。この詳しい土地説明から、パウロたちがヨーロッパに初めて入る緊張感を読み取らなければなりません。彼らが安息日に会堂でなく町の外の祈り場に行ったとは、ここにはユダヤ人の青年男子が 10 名いなかったことを示しています。後にキリスト教化されるヨーロッパも、この時のパウロたちにとって全くの未体験ゾーン。しかし、彼らは神様から示された場所故に、この地に果敢に挑んだのです。

②じっくり聞いて、そして信じたリディア

「**神をあがめる**（リディアという婦人）」とありますが、これはユダヤ人ではないけれども聖書の神様を信じるようになった人のことを言います。紫布を商う仕事でどこかでユダヤ人と接する機会を得、聖書の神様の話を聞いて信じる者となったのでしょうか。そのリディアがパウロの話を聞いたのです。「（リディアという婦人も）話を聞いていたが」は一回ではなく、何度か聞いたことを示す言葉（未完了過去形）が使われています。また、「**パウロの話を注意深く聞いていた**」とあります。何も考えず、思い込みで信じたのではなく、じっくり聞き、信じるに足るかどうかしっかり判断し、信じたのです。何を？ 聖書の神様がイエス・キリストをお送り下さった、ということなのです！

③信仰の主体者は私ではなく神様！

ルカは、「**主が彼女の心を開かれたので**（彼女はパウロの話を注意深く聞いた）」と記しています。神様が、信仰深い僕（パウロ）の言葉を通して、彼女の心を開かれたのです！ 神様がこの出来事の主体者なのです！ 信仰は、「私が」決断するかどうかだけを考える事柄ではなくて、むしろ、「神様が」私を導かれたのだということを考えなければならない出来事なのです。

④神様がパウロにリディアを備えたもう！ 私たちにも！

パウロの果敢な挑戦に神様がリディアを備えて下さいました。私たちの人生も同じです。神様が必要なものは必ず備えて下さるのです！